



熊本県警察本部 生活安全企画課  
犯罪抑止対策室 室長補佐  
警部 平田美和さん

## 多発する 特殊詐欺の実態

昨年の県内の特殊詐欺被害は、過去5年で最悪の数字となりました。熊本県警では被害撲滅に向けて、取り組みを進めています。

「減少するかに見えた特殊詐欺被害がここ3年で増加傾向になってい

ます」と話すのは、県警察本部犯罪抑止対策室の平田美和さん。「詐欺の犯人は次から次に新しい手口でだ

まそうとってくるため、イタチごっこの状態が続いています。その他にも、メールやSNSなどを利用した

昨年の被害最高額は  
約4千万円

いまだに多くの人が「特殊詐欺」の被害に遭っています。特殊詐欺とは、電話やメール、ハガキなどを使って被害者を信じ込ませ、お金をだまし取る犯罪の総称のこと。県警が令和4年に被害届を受理した特殊詐欺の認知件数は100件、被害額は約3億3千万円にのぼり、件数・金額ともに過去5年間で最悪の数字です。

昨年、県内の70代女性が過去5年で最高額となる4千万円の被害に遭っており、高額被害も相次いでいます。被害者の年齢を見ると、65歳以上が約8割。高齢者を標的に、言葉巧みに金銭を要求する傾向にあります。

「減少するかに見えた特殊詐欺被害がここ3年で増加傾向になってい

ます」と話すのは、県警察本部犯罪抑止対策室の平田美和さん。「詐欺の犯人は次から次に新しい手口でだまそうとってくるため、イタチごっこの状態が続いています。その他にも、メールやSNSなどを利用した

昨年の被害最高額は  
約4千万円

いまだに多くの人が「特殊詐欺」の被害に遭っています。特殊詐欺とは、電話やメール、ハガキなどを使って被害者を信じ込ませ、お金をだまし取る犯罪の総称のこと。県警が令和4年に被害届を受理した特殊詐欺の認知件数は100件、被害額は約3億3千万円にのぼり、件数・金額ともに過去5年間で最悪の数字です。

昨年、県内の70代女性が過去5年で最高額となる4千万円の被害に遭っており、高額被害も相次いでいます。被害者の年齢を見ると、65歳以上が約8割。高齢者を標的に、言葉巧みに金銭を要求する傾向にあります。

「減少するかに見えた特殊詐欺被害がここ3年で増加傾向になってい

ます」と話すのは、県警察本部犯罪抑止対策室の平田美和さん。「詐欺の犯人は次から次に新しい手口でだまそうとってくるため、イタチごっこの状態が続いています。その他にも、メールやSNSなどを利用した

昨年の被害最高額は  
約4千万円

いまだに多くの人が「特殊詐欺」の被害に遭っています。特殊詐欺とは、電話やメール、ハガキなどを使って被害者を信じ込ませ、お金をだまし取る犯罪の総称のこと。県警が令和4年に被害届を受理した特殊詐欺の認知件数は100件、被害額は約3億3千万円にのぼり、件数・金額ともに過去5年間で最悪の数字です。

「減少するかに見えた特殊詐欺被害がここ3年で増加傾向になってい

ます」と話すのは、県警察本部犯罪抑止対策室の平田美和さん。「詐欺の犯人は次から次に新しい手口でだまそうとってくるため、イタチごっこの状態が続いています。その他にも、メールやSNSなどを利用した

昨年の被害最高額は  
約4千万円

いまだに多くの人が「特殊詐欺」の被害に遭っています。特殊詐欺とは、電話やメール、ハガキなどを使って被害者を信じ込ませ、お金をだまし取る犯罪の総称のこと。県警が令和4年に被害届を受理した特殊詐欺の認知件数は100件、被害額は約3億3千万円にのぼり、件数・金額ともに過去5年間で最悪の数字です。

昨年、県内の70代女性が過去5年で最高額となる4千万円の被害に遭っており、高額被害も相次いでいます。被害者の年齢を見ると、65歳以上が約8割。高齢者を標的に、言葉巧みに金銭を要求する傾向にあります。

令和4年 県内の特殊詐欺被害総額

# 3億2,941万円



# 一寸先は、詐欺。

全国的に多発している「特殊詐欺」。詐欺は人の弱みにつけ込んで財産を奪う悪質な犯罪です。被害を防ぐためにできることを一緒に考えましょう。

マインドコントロールを  
されているようだった

「自分がだまされるとは思っていませんでした。ことし2月に、被害に遭った70代男性のKさんは振り返ります。

Kさんはある日、パソコンの画面に表示された「ウイルスを検知しました」という警告画面に驚き、表示された番号に電話します。最終的に、パソコン修理サポート費用の名目で、コンビニで購入した電子マネー（計14万円）をだまし取られました。犯人と会話したKさんは「ウイルスに感染して情報が筒抜けだと言われ、さらにパソコンの専門的な話に

もなり、不安でいっぱいになりました。まるでマインドコントロールされているようでした」と話します。

「怪しいんじゃないの」と心配してくれた妻や、コンビニで高額な電子マネー購入を注意してくれた店員の話も聞こうとはしませんでした。「早く言われたとおりにならないと、銀行口座のお金が引き出され、もっと大変なことになる」と思ったそうです。

Kさんは自身の経験を踏まえ、誰もが詐欺に遭う可能性があると話します。「警察に被害届を出しましたが、だまされたお金は戻ってきていません。もう自分のような経験をする人は出てほしくないですね」

手口が拡大し、若い世代が被害を受けることも少なくありません」と語気を強めます。

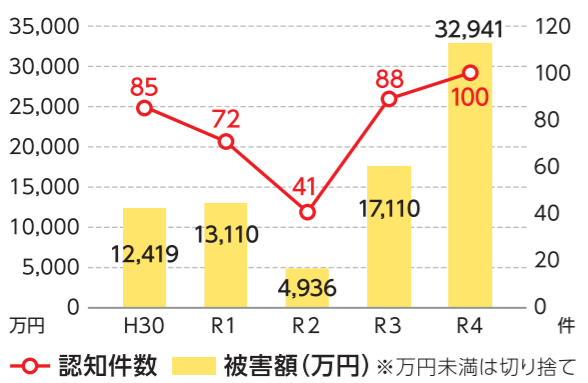
県警では、相次ぐ特殊詐欺に対応するため、24時間受け付け可能な相談窓口（「電話で『お金』詐欺」ホットライン）を設置。特殊詐欺撲滅に向けて、取り組みを強化しています。

「だまされない自信があった」  
約9割が回答

相次ぐ被害にこう思ったことはないでしょうか。「単純な手口になぜ引かかるとか」「だまされる方が悪い」。詐欺に遭う人はみんな、「ニュースでこうしたことがある」とは知っていて、まさか自分が被害に遭うとは」と、口をそろえます。

令和4年の県警の統計では詐欺に遭った人の約9割が「だまされない自信があった」と回答しています。「いつ、誰が被害を受けるかわかりません。特殊詐欺の被害が増加している現在、実態を知り、正しい知識を身に付けることが大切です」と平田さんは訴えます。

特殊詐欺の認知件数と被害額の推移（県内）



令和4年 特殊詐欺の被害状況（県内）

種別	認知件数	被害額
オレオレ詐欺	19	1億3,586万円
預貯金詐欺	1	130万円
架空料金請求詐欺	24	1億2,213万1,600円
融資保証金詐欺	1	308万円
還付金詐欺	35	3,264万2,172円
ギャンブル詐欺	2	61万円
キャッシュカード詐欺盗	18	3,378万8,000円
合計	100	3億2,941万1,772円